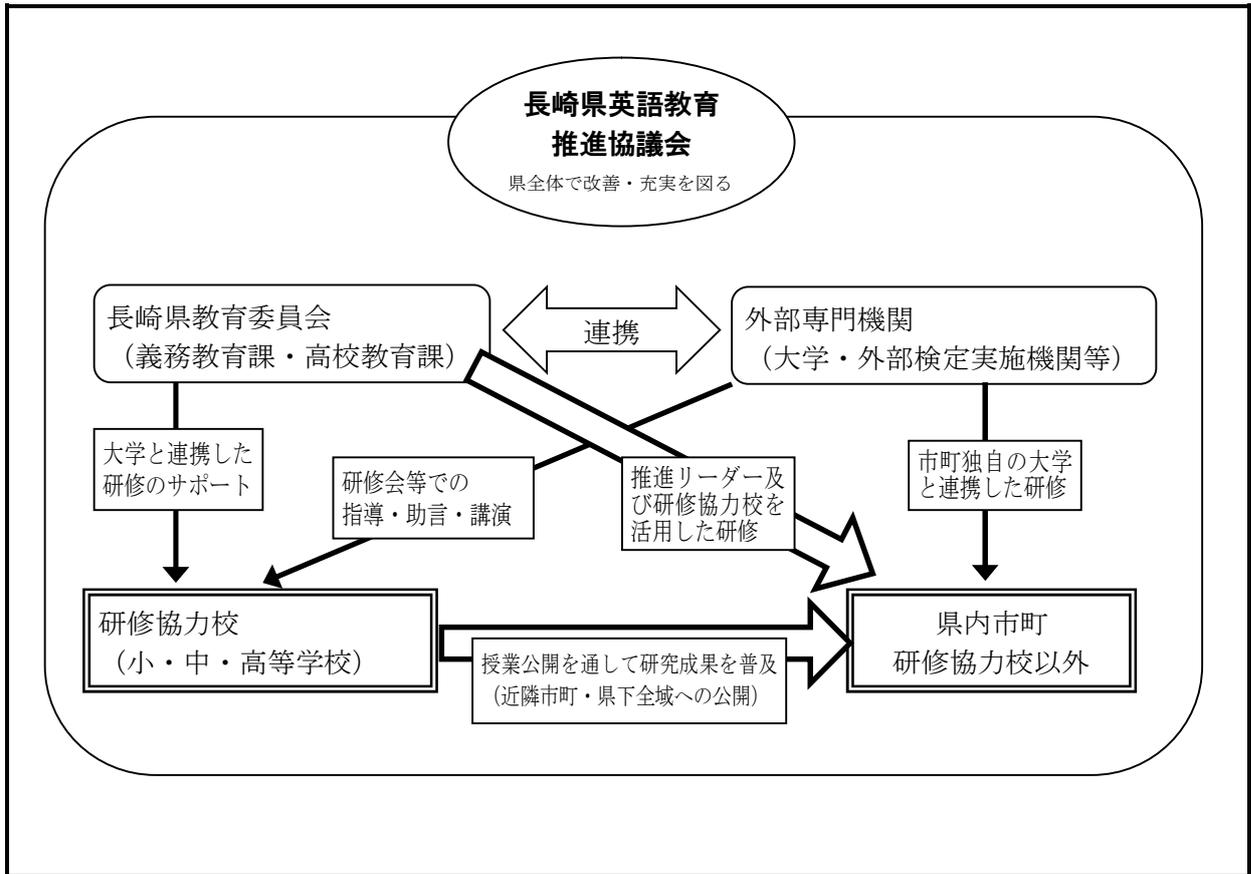


(様式3-2)

長崎県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

①求められる英語力を有する教師の割合

【中学校】 30年度達成値：33.1% (目標値：50%) 31年度目標値 50%

昨年度の29.7%から、3.6%増加した。県として、2020年までの目標を50%に設定しているが、CEFRのレベルに対してTOEICの基準が見直され、英語教員にとってはさらに目標が高くなった。今年度も県としてTOEIC IPテストの受験機会を確保し、特に未受験及び資格取得に至っていない英語教員に対しての働きかけを行う。各種研修会等では、指導内容の高度化に向けて、英語力の向上が求められることを周知徹底する。

【高等学校】 30年度達成値：74.7% (目標値：80%) 31年度目標値：78%

平成28～30年度は、8月の「教員の英語力向上研修会Ⅰ」において、教員が自らの英語力を高めるための方法や外部検定試験の概要に関する研修を実施し、2月の「教員の英語力向上研修会Ⅱ」で、TOEIC IPテストの受験を実施した。平成31(2019)年度も同様の研修会を計画し、英語力の向上を図る。

②求められる英語力を有する生徒の割合

【中学校】 30年度達成値：33.1% (目標値：50%) 31年度目標値 50%

今年度は、県全体として中学校の授業改善に重点を置いて指導することを年度初めの英語教育推進協議会で確認した。また、教育課程説明会(英語部会)において、新学習指導要領が目指す今後の指導の在り方と授業改善の必要性について周知した。

【高等学校】 30年度達成値：40.1%（目標値：50%） 31年度目標値 50%

平成28年度から実施している県独自のスピーキングテスト「高校生英会話力テスト」を今年度も継続実施し、生徒の聞く力・話す力をより客観的に把握し、発信力を強化する。また、推進リーダーによる「指導力向上研修」の研修内容を生かし、4技能をバランスよく高める授業の充実を図り、生徒の英語力を向上させる。

③学習到達目標の整備状況

【中学校】 30年度達成値

（設定）：98.3%（目標値：100%） 31年度目標値 100%

（公表）：8.1%（目標値：100%） 31年度目標値 30%

（把握）：39.0%（目標値：100%） 31年度目標値 50%

今年度は、目標値を修正し、年度ごとに達成できるように再設定する。設定については、まず100%にし、公表と把握については、その捉え方をまず県全体で共通理解する。

【高等学校】 30年度達成値

（設定）：100%（目標値：100%） 31年度目標値：100%

（公表）：21.3%（目標値：50%） 31年度目標値：30%

（把握）：49.3%（目標値：75%） 31年度目標値：55%

平成30年度現在、全ての県立高校に「CAN-DOリスト」の作成・提出を求めている。今後は継続的に研修会の実施と学校訪問等を通じて、リストの改善、ホームページ等での公表、リストを活用した評価の改善等に向けた取組を進めていくと同時に、中学校との効果的な接続について研究していく。

④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

【中学校】 30年度達成値：85.6%（目標値：80%） 31年度目標値 90%

授業の半分以上言語活動を行っている割合は、昨年度の73.8%から大きく改善された。また、75%以上言語活動を行っている割合は、各学年とも授業の約3割程度である。今後、さらに言語活動の充実を図り、新学習指導要領の全面実施に向けて授業改善を推進していく。

【高等学校】 30年度達成値：50.2%（目標値：60%） 31年度目標値 55%

英語教育推進リーダーを講師とした「英語科教員指導力向上研修」や「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の一環として実施した「言語活動・パフォーマンステスト研修会」等を通して、生徒の言語活動を中心とした授業づくりに必要なスキルを高める機会を設けてきた。今後は、「指導力向上研修」の研修内容を生かし、言語活動の中身についても充実を図るよう働きかける。また、研修協力校による公開授業を通して、「CAN-DOリスト」の活用も含め、効果的な指導の在り方や先進的な取組等を生かした授業の普及に努め、生徒の言語活動を中心とした授業づくりを推進する。

⑤パフォーマンステストの実施状況

【中学校】スピーキング 30年度達成値：2.9回（目標値3回） 31年度目標値：3.2回

ライティング 30年度達成値：2.2回（目標値2回） 31年度目標値：2.5回

スピーキングについては目標に近づき、ライティングについては目標値を超えているが、地域や学校、教員によって取組に差が見られる。パフォーマンステストによって指導と評価を一体化し、授業改善や生徒の学習方法の改善につながることを、「学力UP通信」や「教育課程説明会」で今後も発信していく。学期に1度は必ず実施するよう、県全体で確認し、実施方法や実施時間の確保についても、情報共有を行っていく。

【高等学校】

○スピーキングテスト

- ・コミュニケーション英語Ⅰ

30年度達成値：1.59回（目標値1.5回）31年度目標値：1.7回

- ・コミュニケーション英語Ⅱ

30年度達成値：1.59回（目標値1.3回）31年度目標値：1.7回

- ・コミュニケーション英語Ⅲ

30年度達成値：1.16回（目標値1.3回）31年度目標値：1.3回

- ・英語表現Ⅰ

30年度達成値：0.53回（目標値1.5回）31年度目標値：1.5回

- ・英語表現Ⅱ

30年度達成値：0.35回（目標値1.2回）31年度目標値：1.2回

○ライティングテスト

- ・コミュニケーション英語Ⅰ

30年度達成値：0.65回（目標値1.0回）31年度目標値：1.0回

- ・コミュニケーション英語Ⅱ

30年度達成値：0.59回（目標値1.0回）31年度目標値：1.0回

- ・コミュニケーション英語Ⅲ

30年度達成値：0.60回（目標値1.0回）31年度目標値：1.0回

- ・英語表現Ⅰ

30年度達成値：1.72回（目標値1.5回）31年度目標値：2.0回

- ・英語表現Ⅱ

30年度達成値：2.42回（目標値1.8回）31年度目標値：2.7回

平成28年度から本県独自のスピーキングテスト「高校生英会話力テスト」を開発し、ALT等を活用して全日制県立高校の全ての生徒を対象にインタビューテストを行っている。今年度は「高校生英会話力テスト」の質をさらに高めながら、評価方法の研究も行いたい。また、英語教育推進リーダーによる、言語活動やパフォーマンステストについての研修会を実施し、パフォーマンステストの意義や方法論について研修及びワークショップを行っていく。

⑥英語担当教員の授業における英語使用状況

【中学校】30年度達成値：79.7%（目標値：100%） 31年度目標値 90%

授業の50%以上使用している割合は増加してきたが、8割を超えることができていない。実施状況調査の結果では、地域によって差があるので、割合の低い市町においては、日本語による文法の説明や逐語訳などが授業の中心とならないよう指導することを確認する。

また、75%以上使用している割合は全学年ともまだ2割に達していない。今後、新学習指導要領の全面実施に向けて、移行期間に徐々に英語使用の割合を増やし、英語で授業を行うことを目指すよう、研修会等で助言したり、公開授業でモデルを提示したりする。また、教育課程説明会において、改訂の趣旨・内容の説明と合わせて周知徹底していく。

【高等学校】30年度達成値：54.8%（目標値：80%） 31年度目標値 60%

英語で進める授業が広がりつつあるが、その一方で、教師による説明が中心の授業も散見され、目標には達していない。各研修会において英語で進める授業のモデルを示したり、県英語教育研究会が発行するニュースレターを活用して情報発信を行ったりするなどして、教師が英語を使用するに当たっての意義や効果的な指導方法等について、今後も周知徹底を図っていく。

平成30年度で英語教育推進リーダーによる「英語科教員指導力向上研修」が完結した。研修を生かし、英語による言語活動を中心とした授業がさらに活発に行われることが期待される。

⑦英語担当教員に対する研修実施回数

【小学校】 30年度達成値： 4回 183名（目標値：4回 80名）
31年度目標値 10回 300名

英語教育推進リーダーによる伝達研修が終了したが、教育センターにおける研修講座で多くの教員が受講した。特に、「小学校外国語教育研修講座Ⅰ（トライアルコース）」、「小学校外国語教育研修講座Ⅱ」（スキルアップコース）は、中学校教員も含め約100名が受講しており、今年度も同研修講座を実施する。

また、移行期間の最終年度である今年度は、外国語の授業に対する苦手意識や不安を感じている教員対象の研修「イングリッシュ・サポートキャンプ」を本県新規事業として県内3か所で実施し、全面実施に向け自信を持って授業ができるようなサポート体制を整える。

【中学校】 30年度達成値：14回 119名（目標値：4回 80名）
31年度目標値 12回 100名

教育センター研修講座「中学校外国語科研修講座」では、授業改善及び小中連携を中心に研修を実施した。また、英語指導力向上研修として、県費でTOEIC IPテスト受験料を負担し、今年度も受験機会を確保する。その際、未受験者及び資格取得に至っていない教員を優先し、大学教授による英語力向上についての講義を実施する。

【高等学校】 30年度達成値：22回 340名（目標値：20回 250名）
31年度目標値 17回 190名

『英語教育改善プラン』推進事業における各研修会を中心に、幅広いテーマに関して研修の機会を提供し、教員の指導力向上に努める。各研修の受講者は各所属校で研修内容の報告等を行うことによって、その成果を効果的に普及させていく。

(3) 研修の体系と内容の具体

<小・中学校>

①「大学等と連携した英語指導力向上事業」

波佐見町の全小中学校（中学校1校、小学校3校）を研修協力校とし、4校が1回ずつ授業を公開し、小中相互の授業参観及び小中合同の研修会等を実施する。大学の専門的な指導助言を継続的に受けながら、小学校の早期化・教科化への対応、中学校の授業改善、小中連携等について研修を行う。波佐見中学校はH30年度のスピーキングテストが各学年平均1.7回と少なく、改善を促すとともに、生徒のスピーキングテストの結果を統計化し、授業にフィードバックしていく。可能であれば3小学校でもスピーキングテストを試みる。研修成果は、県下全域への公開授業及び「長崎県英語教育推進協議会」での報告により県全体で共有し、各市町で生かす。

<波佐見町における研修・大学の指導予定>

- (1) 小学校と大学の打合せ（研修内容等について）
- (2) 中学校と大学の打合せ（研修内容等について）
- (3) 波佐見中学校公開授業・大学の指導助言（域内・近隣に公開）
- (4) 中央小学校公開授業・大学の指導助言（域内・近隣に公開）
- (5) 南小学校公開授業・大学の指導助言（域内・近隣に公開）
- (6) 東小学校公開授業・大学の指導助言（域内・近隣に公開）
- (7) 小・中公開授業（県内全域に公開）

②「長崎県英語教育推進協議会」

県内の英語教育関係者（小・中・高・大）約50名が参加し、年2回開催する。

第1回の協議会（6月予定）では、国の動向、県の事業説明、大学教授からの助言等を行い、実施状況調査の結果等を基にした課題の共有や情報交換、協議等を行う。

第2回（2月予定）では、全国学力・学習状況調査及び実施状況調査の結果を受けて、県全体

での課題について共通理解を行う、その改善について協議を行う。また、研修協力校の成果の共有や、県内の先進的な取組について情報交換を行う。

参加者：大学教授5名（県内4大学）、全市町教育委員会指導主事、附属学校長
研修協力校校長、教育センター、高校教育課、義務教育課

③「イングリッシュ・サポートキャンプ」（本県事業）



新学習指導要領の全面実施に向けて、本県新規事業「小学校からの英語教育ボトムアップ事業」の1つとして、小学校教員対象の研修「イングリッシュ・サポートキャンプ」を実施する。これまで外国語の授業経験が少ない教員や英語を苦手としている教員を対象とした2日間研修を県内3か所で実施する。クラスルームイングリッシュのすぐに授業に生かすことのできる体験的な研修とし、研修内容については、連携している大学の指導・助言を生かしたプログラムとする。

（県北） 9月12日、13日（会場：佐世保市内） 120名

（県南） 9月18日、19日（会場：長崎県庁） 120名

（県央） 10月 3日、 4日（会場：教育センター） 120名

④「検証改善委員会」からの発信

学力向上対策の取組として、例年、県学力調査（4月に第3学年で実施）の結果を分析し、県全体の課題の改善策を、授業公開により具体的に提案している。平成31年度は、全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、県全体としての課題を発信・共有し、中学校の授業改善をさらに推進していく。

○全国学力・学習状況調査結果分析及び重点課題の設定（6月～10月）

○課題改善のための検証授業

⑤「英語教育推進リーダー」を活用した研修会

教育センター研修講座において、研修プログラムの一部で推進リーダーを講師とした研修を実施する。

○「小学校外国語教育研修講座Ⅰ（トライアルコース）」（5/30, 31）

○「小学校外国語教育研修講座Ⅱ（スキルアップコース）」（1/15, 16）

⑥「次代を担う高校生の資質・能力を育成する指導改善プロジェクト」における小中高連携

県立高校を対象とした本県事業において、高校教育課及び大学と連携し、小中高連携した英語教育の推進を図る取組を行う。研究指定校である高等学校が、近隣小・中学校との相互の授業参観や合同研修会を実施する。

⑦その他

本県新規事業「小学校からの英語教育ボトムアップ事業」の一部として、県全体で以下の取組を実施する。

(1) 「イングリッシュ・パフォーマンスコンテスト」

本県では5年間継続して「長崎県中学生英語暗唱大会」を実施してきた。各市町からの代表生徒が市町の予選会や審査を経て参加して年々レベルが高くなっている。今年度は、その大会に小学生のスピーチ部門を加え拡充させる。

(2) 「英単語・表現学習教材 RISE UP ENGLISH」の活用促進

平成26年度から公開している学習サイトは中学生向け教材であるが、小学生でも取り組むことができるので、積極的な活用を促していく。また、このサイトと教材の内容を「長崎県スペリングコンテスト」として、生徒の語彙力や表現力の向上を目指して5年間継続し、授業での活用や学校全体の取組として定着してきているので、さらなる活用促進を図る。

<高等学校>

平成30年度までの取組をもとに、研修協力校を中心に地域の小学校・中学校・高等学校が連携した指導力向上の取組を行う。

【研修の内容】

①英語教育における小中高連携に関する研修会

研修対象者：研修協力校（高校）を中心とした地域の小中高の英語科担当教員

研修目的・内容等：

小学校外国語教育の早期化・教科化及び大学入試改革等を踏まえ、県立高校を拠点として地区内の小中高が連携した取組を行い、地域が一体となった外国語教育の推進を図る。

研修協力校において、公開授業や研究協議等を実施し、生徒の英語運用力を高める効果的な指導について情報交換を行う。また、外部専門機関から講師を招き、講義・演習を行う。

②指導力向上研修会

研修対象者：高等学校の英語科担当教員等

研修目的・内容等：

英語教育推進リーダーによるモデル授業を提示し、研究協議等を実施することで、英語で行う授業や生徒の言語活動を中心とした授業について意識を高め、指導力の向上を図る。また、外部専門機関から講師を招き、言語活動やパフォーマンステストなど幅広いテーマに関する研修の機会を提供する。

③教員の英語力向上のための研修会

研修対象者：外部検定試験の受験を希望している高校教員30名程度

研修目的：内容等：

英語で行う授業を推進するため、教員の英語力を高めることを目的として実施する。英語力向上への取組について講義や演習を行う。また、参加者は後日 TOEIC IP テストを受験する。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月	【高校】推進リーダー連絡協議会 【小中高】小中高連携に関する研修会Ⅰ	県内大学等
6月	【小中高】第1回長崎県英語教育推進協議会 【小中】波佐見町①研修計画・研修会（小学校） 【小中】波佐見町②研修計画・研修会（中学校） 【高校】指導力向上研修Ⅰ	長崎大学、長崎純心大学 県立大学、活水女子大学 県外大学等
7月	【小中高】小中高連携に関する研修会Ⅱ	県内大学等
8月	【中】英語指導力向上研修（TOEIC IP テスト）（県費）	
9月	【小中】波佐見町③公開授業（中学校）	
10月	【小中】波佐見町④公開授業（小学校） 【小中高】小中高連携に関する研修会Ⅲ 【高校】指導力向上研修Ⅱ	県内大学等 県外大学等
11月	【小中】波佐見町⑤公開授業（小学校）	
12月	【小中】波佐見町⑥公開授業（小学校） 【高校】英語力向上研修	
1月		↓
2月	【小中高】第2回長崎県英語教育推進協議会 【小中】波佐見町・授業公開⑦（小・中）（域内・県下全域）	長崎大学、長崎純心大学 県立大学、活水女子大学
3月		
【その他の取組】 ○新学習指導要領の全面実施に向けた「教育課程説明会外国語部会（小・中）」 ○小学校外国語の指導力向上を図る研修「イングリッシュ・サポートキャンプ」		

都道府県等 教育委員会名	長崎県教育委員会
-----------------	----------

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022			
			目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値		
高等学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	74.7	78		80		82		84			
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	50	40.1	50		60		60		60			
	③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100		
			公表(%)	50	21.3	30		40		50		60		
			達成状況の把握(%)	75	49.3	55		60		65		70		
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	60	50.2	55		60		65		70			
	現行課程	⑤	パフォーマンステストの実施状況 ○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	1.5	1.59	1.7		2		2.5		3	
				コミュニケーション英語Ⅱ	1.3	1.59	1.7		2		2.5		3	
				コミュニケーション英語Ⅲ	1.3	1.16	1.3		1.5		1.8		2	
				英語表現Ⅰ	1.5	0.53	1.5		1.8		2		2.3	
				英語表現Ⅱ	1.2	0.35	1.2		1.5		1.8		2	
				ライティングテスト(回)	1	0.65	1		1.2		1.5		1.8	
		新課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	1	0.59	1		1.2		1.5		1.8	
				コミュニケーション英語Ⅱ	1	0.59	1		1.2		1.5		1.8	
				コミュニケーション英語Ⅲ	1	0.6	1		1.2		1.5		1.8	
				英語表現Ⅰ	1.5	1.72	2		2.5		3		3.5	
				英語表現Ⅱ	1.8	2.42	2.7		3		3.5		4	
				ライティングテスト(回)	1	0.6	1		1.2		1.5		1.8	
新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ										2		
		英語コミュニケーションⅡ										2		
		英語コミュニケーションⅢ										2		
		論理・表現Ⅰ										4		
		論理・表現Ⅱ										4		
		論理・表現Ⅲ										4		
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	54.8	60		65		70		80				
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	20	22	17		17		17		17				
	研修受講者数	250	340	190		200		200		200				

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
			目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	33.1	50		50		50		50		
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	45	43.4	50		60		60		60		
	③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	98.3	100		100		100		100	
			公表(%)	100	8.1	30		50		70		100	
			達成状況の把握(%)	100	39	50		60		70		100	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80	85.6	90		95		100		100		
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3	2.9	3.2		3.5		4.0		4.5	
			ライティングテスト(回)	2	2.2	2.5		3.0		3.5		4.0	
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	79.7	100		100		100		100			
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	4	14	12		15		15		15			
	研修受講者数	80	119	100		150		150		150			

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	①	学習到達目標の整備状況	設定(%)					30		40		50
			公表(%)					10		20		30
			達成状況の把握(%)					30		40		50
②	小学校教員に対する研修実施回数	4	7	10		12		12		12		
③	研修受講者数	80	183	300		300		150		150		